

庭の薔薇がもたらした幸せ

織茂 麻子 宮城県仙台市

私の父は、庭で花を愛し育てていた。

私は昭和44年、岩手県盛岡市で生まれ育った。

父は、庭で薔薇の栽培をしていた。薔薇のコンクールに出展するほど心を込めていた。

私が小学校へ入学すると、父は

「小学校へ薔薇の花を持っていきなさい。」

と、庭の薔薇を持たせてくれた。

薔薇の花束を手を持ち、小学校までの2kmの道を歩くと、薔薇を持たない日より、持つてゐる特別な日のほうが軽やかに歩いて短い距離に感じたものだ。

学校に着き、担任の先生へ薔薇を渡すと

「まあ！綺麗な薔薇。」

先生の顔がみるみる柔和になり、花瓶に挿し教壇の上に飾った。

そして、先生がみんなの前で

「薔薇が咲いた、薔薇が咲いた、真っ赤な薔薇がー」

と楽しそうに嬉しそうに歌ってくれた。

わー、庭の薔薇が喜んで笑ってるみたい！

こんなにも先生は嬉しそうな顔をするんだ！

こんなにも楽しそうに歌うんだ！

私の庭の薔薇が、父の薔薇が、みんなを笑顔に幸せにしてくれている！

小学1年の私は、そんな父が誇らしかった。

そして私の家の庭が、どんどん大好きになっていった。

薔薇の花を学校へ持たせてくれた父、なんて素敵な事を思いつくのだろう。

この薔薇から漂う嬉しい楽しい波動がクラスのみんなを包み、薔薇が教壇にある日は、みんないつもより心地よい顔してたように感じた。

あ、今、あの庭の薔薇の香りが、時空を超えてふわっと漂った。ありがたい思いが今の活力になる。

庭よ、ありがとう。

父よ、ありがとう。